

山田宏の
タックル
ニュース

令和2年号

7月15日

令和2年

発行

山田宏よい国後援会
機関紙



自民党



魚釣島に「海洋自然観測所」の設置を！ まず自然海洋調査団の派遣から

参議院議員 山田宏

中国の「サラミ戦術」の段階が進んだ

わが国全土が中国発ウイルス感染症の緊急事態宣言下にあった5月8日、連日尖閣諸島周辺に侵入してきた中国公船（海警）2隻が、わが国領海内で漁業をする日本漁船を2時間以上にわたって追尾するという事件が発生しました。

過去にも4回の追尾事件はありましたが、今回はこれまでとは違いました。当日の外務省の嚴重抗議にもかかわらず、中国側はこれを全く無視。翌日翌々日と3日間にわたり執拗に漁船を追い回したのです。さらに5月11日には、中国政府報道官が「日本漁船は中国領海内で違法操業をしたので、中国の国内法に基づいて追尾監視した」「日本は新たな騒ぎを起こすべきでない」とコメントを国際社会に向けて発表したのです。

中国は1970年代以降突然に尖閣諸島の領有権を主張し始めましたが、今回は施政権（実効支配）も中国にあると堂々と表明し始めたのです。戦争にならないよう少しずつ現状変更を図る「サラミスライス戦術」は中国の常套手段ですが、今回の事件はさらにその段階が進んだと見ています。

次は日本漁船の捕か

次の段階は、わが国漁船の捕獲の可能性が大了。なぜならベトナムと領有権を争う西沙諸島周辺でも、中国はまずベトナム漁船の追尾次に捕、そして漁船の爆破とエスカレートしていったからです。

仮にわが国領海内で日本漁船が中国公船に捕されたら、乗船者は中国に連行され、裁判にかけ処罰すると脅された上、公開の場で「自分たちは中国領海内で中国の法律を犯した」と謝罪させられるはず。そして中国はその映像を世界中に「ほら見ろ」と喧伝することになります。そしてそのうちに世界は、尖閣諸島の施政権も中国側にあるのではないかと見るようになっていきます。

中国の狙いは日米安保条約の骨抜き

多くの日本人は、尖閣有事の際は日米安保条約があるから大丈夫と考えているのではないかと思います。しかし、このままだけは安心とは言えなくなります。

日米安保条約第5条は「日本国施政下にある領域」が「武力攻撃」があった場合、日米が共通の危険に対処することを定めています。しかしもし日本の施政下にあることに疑問符がついたら、仮に米国大統領が日本の施政権を認めて共同で対処しようとしても、施政権の証としての施設もない無人島で、しかもその周辺で日本の漁民が違法操業で捕獲されている状況を、「日本の施政下にある領域」と米国国民に理解できず、連邦議会の支持が得られないということもあり得るでしょう。

まさに中国の狙いは、日本の施政権に疑問符をつけ、日米安保条約を骨抜きにすることなのです。

速やかに実行支配の証を

2012年12月の総選挙で政権復帰を果たした時の自民党の公約は、「尖閣諸島に公務員を常駐させる」でしたが、いつの間にかうやむやに。今こそこの公約を実現させるべきです。一方今それをやれば、中国は「日本が挑発した」として武力行使に出かねない、米国の了解も得られるのかといった危惧の声があるのも事実です。

そこで私は、魚釣島に「海洋自然観測所」の設置も検討すべきと考えます。尖閣諸島周辺海域における海洋調査は、気象予測や航行安全や防災といった面から重要であり、生態系の面からもセンカクモグラなどの固有種も多いとされ、自然科学的な観点でわが国のみならず世界にも貢献しうる可能性を秘めている海域です。

そこで「海洋自然観測所」の設置に向け、1972年以来50年間に実施されてこなかった尖閣諸島周辺海域の科学的調査を行うべく、私は調査実施のための法案の準備に取りかかりました。後の祭りにならないよう、同志の議員を募り議員立法も視野に入れて頑張る決意です。

尖閣調査議員立法を検討



尖閣諸島周辺海域で取れた魚のお披露目会に出席した自民党議員ら—25日午後、国会内（春名中撮影）

自民有志 政府に義務付け

中国公船による尖閣諸島（沖縄県石垣市）での挑発行為が続く中、自民党の有志議員らが25日、国会内で会合を開き、政府による尖閣諸島の生態系調査の実施に向けた法整備を目指す方針を確認した。

出席した山田宏参議院議員は、日本の施政権を明確に示す必要性を強調した上で、尖閣での生態系調査を政府に義務付ける法律を議論する必要がある。

尖閣周辺海域は黒潮が流

れる好漁場として知られているが、会合では近年、その海域の漁が困難になっていることが報告された。大型の中国公船が挑発を重ねているためだ。中国当局の船は25日も含め、73日連続で周辺海域での航行が確認され、これまでの最長の連続日数を更新した。

今回の漁は石垣市の登野城漁港を出港した小型漁船2隻が20～22日に行ったが、帰港する際、4時間にわたって中国海警局の船4隻に追尾されたという。会合ではその際に撮影した映像の一部を公開した。

自民党内では尖閣周辺で5月8日に日本領海内に侵入した中国海警局の船が、日本漁船を執拗に追い回した際の映像の公開を求める声が高まっている。ただ、菅義偉官房長官は25日の記者会見で「総合的に、慎重に検討している」と述べるにとどめた。



2012年8月 尖閣諸島慰霊祭 魚釣島を背に中田宏 元横浜市長と

